

令和6年度 第3回 入船小学校地域連携運営協議会 会議録

日時：令和6年11月1日（金）午後2時00分～3時00分

会場：入船小学校 会議室

傍聴：1名

1 校長あいさつ

- ・校長より、最近の学校の様子を伝えるとともに、あいさつを行った。

2 議題

(1) 体力向上について

- ・教頭より、学校の取組について説明を行った。

・協議

委員：園では、好きな遊びをすることで、運動経験の偏りはあると思う。体のバランスは、姿勢保持につながることで、普段から遊び感覚で指導している。姿勢に関しては、椅子の高さが体に合っているかも大切である。

委員：小学校でも、机、椅子の高さは、個々に調整することが必要。低学年は、体幹を鍛えることも大切では。

委員：幼児期に、7つの能力※リズム・バランス・変換・連結・反応・定位（空間把握）・識別（用具操作）につながる運動、遊びを経験させていくことが大切。また、体力テストの握力の結果が低い理由は、握る経験（鉄棒、ジャングルジム、うんてい、自転車等）が減っているからではないか。それらの経験ができる取組をしてはどうか。

（例）「学級の全員がうんていをできるようにしていくチャレンジ」月間

委員：子どもの頃、体育のはじまりに毎回、先生が作ったコースで様々な運動をしていた。取組可能なのではないか。

（例）体育の導入でサーキットトレーニングを入れる

委員：遊び感覚で取り組めるものを検討していけるとよい。学校で、必要に応じて用具も購入する。

委員：運動が苦手な子の底上げをどうしていくか。

昔は、公園に様々な遊具があり、遊びながらいろいろな動きができたが、安全のため今はない遊具もある。けがをさせないためにリスクを排除した結果、防ぎ方を学ぶ機会が少なく、けがに対する免疫がなかったり、余計にけがが増えたりしている面もある。

委員：チャレンジする機会も少なくなっているのではないか。

委員：子ども頃、学校で毎朝5分間走（自由参加）をした。また、若潮公園では、毎朝、地域の方がラジオ体操をやっている。学校でも実施できるのでは。何か具体的な取組を行えると、体力向上につながるのではないか。

また、学校で、教職員が休み時間に子どもと一緒に遊ぶことで、子ども達の運動量確保にもつながるし、関係づくりにもつながる。

委員：ラジオ体操以外に、地域で何かできる活動はないのか。

委員：ないと思う。夕方・夜には習い事をしている児童が多く、朝早く起きることは難しいのではないか。放課後も朝も活動しにくい。

委員：体力は、学校だけでつけるものではないので、地域でやっていくことも必要である。

委員：学校では、いただいた意見から、できる取組を実施していきたい。

委員：小学校の部活動で、クラブチームに入っている子が入部するかどうかは、クラブチームの構成による影響があると思う。バスケのクラブチームは、普段から他学年と一緒に練習しているから、小学校の部活も違和感なく活動できると思う。サッカー部の人数が少ないのは、クラブチームが学年別チームだからではないか。クラブチームの子がサッカー部には入らない背景には、「上の学年の子に偉そうにされたくない」という気持ちがあるように思う。

委員：部活動は、なくさないでほしい。近隣の学校では顧問不足もあり、なくしている学校が出てきている。

委員：中学校では学校ごとに部活動を区切っていく話もあった。今後、本格的に部活動がなくなったら、どこで運動量を確保していくのか。

委員：地域に移行していくことになる。近隣市は、地域移行している。

(2) 次年度の教職員の任用について

・校長より、以下の2点について説明を行った。

① 理科センター校として、毎年、理科に熱意を持っている教員、中・高の理科の免許をもっている教員を求めていること。

② 令和6年度第1回学校評価結果で、保護者のニーズは高いものの、「学校の外国語の勉強は楽しいですか」に対する児童の肯定的な回答が76%だった。このことから、外国語（英語）に長けている教員、中・高の英語の免許をもっている教員を求めていること。

・協議

委員：英語や理科は大切であり、賛成である。そこに加え、今必要な授業が増えていってほしい。性教育や金融教育など。お金の使い方、増やし方がわかるようになる必要があると思う。

委員：英語は、まず子ども達が楽しんで話すことができるよう、明るくコミュニケーション力がある先生がよい。先生によって、子どもの意欲が全然違う。子どもの意欲が高まる英語の先生を任用してもらいたい。

委員：英語について、園の状況はどうか。

委員：公立の園では、英語ができる教員の確保は難しい状況である。

委員：理科は、びっくりするような、楽しい実験を行う先生もいるとよい。

委員：専門性のある教員が必要。

委員：性教育は、知識が全くない状態の年齢から始めてほしい。そのために、教職員に対しての研修も行ってほしい。今後の議題にも挙げたい。また、教科担当制をさらに進めていくと、先生方の負担も減ると思う。

委員：学校では、5・6年生で実施している。5年生は、家庭科、総合、図工で実施。6年生は、体育、図工、家庭科で実施。道徳は、全学年、1人の教員が1つの教材を3クラスで授業するというローテーションで実施している。

委員：学年ごとの事情もあるが、教科担当制は、さらに推進していきたい。

委員：教科担任制の推進は、本来、小中連携・小中一貫の考えのもと取り組むものとする。中学校教員が6年生に授業をしてくれるとよい。

その一方で、海外では学級担任制に戻る動きもある。

委員：特別支援教育については、どうか。支援を要する子はどのくらいいるか。

また、担任以外に、配慮を要する子を支援する教員は、現在、何名配置されているか。

委員：様々な面で配慮すべき児童は多く在籍している。教職員としては、市から、特別支援教育支援員が2名配置されている。他には、市から、学年・教科支援教員が配置されている。

委員：担任だけでは、対応が難しい場合もあると思う。支援する教職員の配置は、市にお願いした方がよいのではないか。

委員：では、先ほどの外国語（英語）、理科の教員に加え、特別支援教育に関する教職員についても要望するということでよいか。

→各委員、了承。

3 次回について

委員：昨日、不登校者数が34万人以上で過去最多という報道があった。不登校の現状、対策について、次回の議題に挙げてほしいのではないか。

委員：では、今回は、先ほど意見が出た「性教育」と「不登校対策」についても協議するということでよいか。

→各委員、了承。

教頭より、今後の予定について確認。今回は、「6年生を送る会」の後、午前中に開催することに変更し、終了。